

令和2年度 大阪府立高槻北高等学校 第1回学校運営協議会 書面開催議事録

校名	府立高槻北高等学校
校長名	青竹 二郎

開催日時	令和2年9月4日(金)
開催場所	書面開催
出席者(委員)	木津俊可委員長、本村康智副委員長、丹家 敬委員、中村 利久子委員、石山浩一委員、 柏原泰和委員
出席者(学校)	書面開催のため、校長を中心に事務局が協力して、電話・メールで協議した
傍聴者	なし
協議資料	令和2年度学校経営計画 第1回学校教育自己診断結果 41期生最終入試状況
備考	

議題等(次第順)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校経営計画について 2. 41期生入試の入試合格状況関係 3. 学校教育自己診断について 4. その他

1. 学校経営計画について

- ① 感染症対策が盛り込まれていないのはなぜか。
例として小学生と交流する「アカデミア」の参加者を増やすというのは矛盾するのではないか。
(2中期目標⇒3(5)⇒2つ目の※印)
⇒ 教育庁からコロナ禍によって縮小した計画は4月の段階では提出しなくてよいという指示もあり、コロナ対策については盛り込んでいません。ご理解くださいますようお願いいたします。
- ② 「机間巡視による個別指導」は感染防止の観点からどのように行われているのか。また、グループワーク等の実施状況はどうか。(2中期目標⇒1(2)ア)
⇒ 臨時休業明けのグループ別登校、6月15日から授業本格的開始あたりまで、確かに机間巡視は無理でした。また、グループワークも控えていました。教壇と生徒の最前列まで1メートルは取っていました。2学期あたりから、徐々にルールを守りながら授業の形態も元の形に戻っています。体育を除いて必ずマスク着用をして授業を受けています。
- ③ ICTを活用した授業(実施した教員)95%(令和元年度)は素晴らしい。(先生方の意識変革、定年による教員の入替り?)今後、活用の中身も分析していく必要があるのではないか。
(3本年度の取組内容及び自己評価⇒(2)の評価指標のア)
⇒ 確かに活用率は高いです。先生によりその活用方法が違います。今後、生徒一人1台のタブレット時代に入ります(GIGAスクール構想事業)ので、オンライン授業は当たり前前の時代になってきます。先生方も年齢や経験に関係なくICTと付き合いを深めていくことは必須となってきます。組織的にスキルアップをめざしていきます。

2. 41期生入試の入試合格状況関係

- ① 41期、40期の関西大学、立命館大学の合格者数の急減と龍谷大学、追手門学院大学、大和大学の急伸は定員厳格化の影響で安全志向になったのか。大学進学率が40期に比べると41期は急増している。適切な進路指導が功を奏しているかと推察される。
⇒ 確かに否定できません。特に40期の関西大学の合格者が激減し、41期は受験者数も大幅に減少しました。
- ③ 教育大学合格者が増えていることは教志コースの成果だと思う。ぜひ継続・発展させてほしい。
⇒ 教志コースの生徒が令和4年入試から大阪教育大学から推薦枠を複数いただけそうです。

3. 学校教育自己診断について

- ① 授業以外の勉強時間について項目を塾等の時間がわかるようにする方が良いかと思う。
(第1回学校教育自己診断:B1、B2の項目)
⇒ 現在のものは包括的に質問しています。今年度は定点観測のため質問は変えませんが、来年度にむけて検討いたします。
- ② 生徒向け学校教育自己診断における学校生活の満足度の肯定的な回答について注視したいと思う。
⇒ 同意見です。

4. その他

- ① コロナ禍の対応で、学校行事の縮小や中止となるなかで、生徒がどのように感じているか気になる所です
⇒ 三大行事の体育祭、文化祭、修学旅行は、無事に終わり、縮小はあったものの生徒は満足していたと思っています。生徒会執行部の生徒たちがリーダーシップを発揮し、動きも早かった。先生方の貢献も大きかったです。

- ② 最近、目を見て挨拶してくれる生徒が増えたように思う。
- ③ 自転車のマナーについて気になる点がある。①左側通行を守らない生徒がいる。②道路の真ん中をスピードを上げて走行している。並列走行の自転車もよく見かける。
⇒ もちろん、生徒へのマナー指導は継続して行っていきます。近隣の学校とも協力し合い、安全確保、事故防止に努めます。

以上

次回の会議日程

日時	令和2年12月2日(水)14:30～
会場	府立高槻北高等学校 2階 会議室